

## ガイダンス

### 1. 建築学と他の分野との関わり

→スライド参照

### 2. 建築環境工学のキーワード

→スライド参照

### 3. 環境共生学部で用意されている環境調整設備系科目の流れ

→スライド参照

### 4. 住環境調整工学とは？

→スライド参照

## 5. 講義の予定

04月18日（水）	第1回目	ガイダンス
04月25日（水）	第2回目	住環境調整の歴史（その1）「森鷗外と建築環境工学」
05月02日（水）		祝日のため講義なし
05月09日（水）	第3回目	住環境調整の歴史（その2）「女性と住環境改善」
05月16日（水）	第4回目	住環境調整の歴史（その3）「暖房の歴史」
05月23日（水）	第5回目	住環境調整の歴史（その4）「冷房の歴史」
05月30日（水）	第6回目	環境デザイン学と環境心理学
06月06日（水）	第7回目	中間試験（時間内でのレポート形式を予定）
06月13日（水）	第8回目	細井先生のお話（就職関連）
06月20日（水）	第9回目	住宅の品質確保の促進等に関する法律に関連する問題（その1）
06月27日（水）	第10回目	住宅の品質確保の促進等に関する法律に関連する問題（その2）
07月04日（水）	第11回目	建築のライフサイクルマネジメント（その1）
07月11日（水）	第12回目	建築のライフサイクルマネジメント（その2）
07月18日（水）	第13回目	建築のライフサイクルマネジメント（その3）
07月25日（水）	第14回目	予備日

注1）上記のスケジュールは、あくまで予定です。検討を加えた結果、予定が大幅に変更になることもあります。十分注意してください。なお、できれば1回分は、講演を企画したいと思っています。

注2）この講義では、住環境の調整に関連する様々な話題を提供することを主眼としています。その中で、興味を持った部分について自分で積極的に学んで欲しいと考えています。従って、特に予習などは必要とはしません。

## 6. 参考図書（順に、書名、編著者名、発行所、発行年月、価格、ISBN番号、熊本県立大学附属図書館所蔵情報（[]内）。以下同様。）

- 1) 環境工学教科書研究会編著「環境工学教科書 第二版」（彰国社、3,500円＋税、「環境設備原論」（2年生・後期担当、担当者：辻原）教科書）〔開架2, 525.1||Ka 56, 0000275620〕
- 2) 建築設備学教科書研究会編著「建築設備学教科書 新訂版」（彰国社、3,600円＋税、「環境設備システム学」（3年生・前期担当、担当者：細井講師）教科書）〔開架2, 528||Ke 41, 0000275623〕

また、講義に関するその他の参考文献は、毎回配布する予定の資料の最後に載せる予定です。附属図書館の所蔵情報も載せる予定ですので、できるだけ多くの文献に積極的に目を通すようにしてください。

## 7. 成績の評価

- 1) 出席点とレポートを総合して、評価します。レポートは、中間レポートと期末レポートの2回出題する予定です。なお、定期試験は行いません。
- 2) 出席点が約3～4割、レポートが約6～7割として評価します。
- 3) 毎回、講義の最後に5～10分程度時間を設け、A4判のレポート用紙に5～10行程度、その回の講義の感想・意見・要望などを書いて提出することで、出席点とします。

## 8. 辻原担当分の講義を行うに当たって

- ・この講義では、環境調整・設備分野に関連して、皆さんに知っておいてもらいたいと担当教員（辻原）が考える話題をできるだけ多く提供することを目的としています。したがって、それぞれの回の講義では、なかなか深い内容まで踏み込むことができません。そこで、配布資料には、数多くの様々な資料を載せるようにしています。自習の際の参考になるようにと考えてのことです。また、参考文献も（附属図書館の所蔵情報を含めて）数多く配付資料に載せる予定です。講義を聴いた後に、自ら、勉強を深めてもらうことを強く望みます。なお、上記の趣旨から、配付資料は穴埋め式とはしていません。辻原担当の「環境設備原論」（2年生後期配当）では、配付資料を穴埋め式としていましたが、講義の性格が異なる点を十分理解して下さい。また、上記の趣旨から、配付資料の枚数が多くなります。ただし、大学の予算の関係から、カラー印刷をすることは現在のところ不可能です（大学事務局側に、カラーで配付資料が作成できるように要望は出しています。）。
- ・講義では、パワーポイントを用います。スライドの内容と配付資料の内容が一致していることもあれば、あまり一致していないこともあります。また、配付資料の順番とスライドの順番がずれることもあります。これは、毎年、配付資料とスライドの改訂作業を行っているのですが、時間の都合上や最新の情報を提供するためにスライドの改訂を優先することが多々あることによります。特にこのような場合は、是非、配付資料の余白やノートなどにスライドの内容に関するメモを取り、自習の際の参考としてください。また、配付資料は前述のように今後の自習のための参考資料の意味もありますので、スライドを用いて説明しない内容もあります。逆に、ビジュアルに見てもらった方がよいものなどは、配付資料にはない内容でもスライドで提示することがあります。配付資料とスライドの性格の違いを考え、両者を見比べながら講義に

参加し、必要であれば、配付資料の余白にメモを取るなどして対応してください。なお、これを機会に、是非メモを取る癖をつけてはいかがでしょうか。眠気防止にもなります。毎年、手を動かさないで眠くなると意見が見られますが、上記の点を考慮すれば、手を動かしてメモを取る場面は数多くあるはずで。自ら積極的に考えて、手を動かして下さい。

- ・辻原担当の2年生後期配当の環境設備原論とは異なり、この講義では何かを覚えなければならないと言うことがあまりありません。そのようなこともあり、穴埋め式の配付資料としてはいません。できるかぎり、配付資料の余白などにメモを取るようにして、自分で工夫して、講義を受けるようにしてください。
- ・眠気防止のためには、講義を聴いた後に、毎回必ず1つは何か質問やコメントをしようと考えながら、講義を聴くことも役に立ちます。その際には、講義の最後に書く感想・意見・要望などのためのレポート用紙を活用してください。
- ・ノートを取ることを辻原から求めることはしませんが、ノートを取らないと講義の内容が頭に入らないという場合は、是非ノートを取るようしてください。
- ・講義とは別に、できるだけ、皆さんの進路選択の参考となるような新聞記事、雑誌記事、書籍、資料、URLなどを配布する予定です。4年間の大学生活も折り返し点です。そろそろ大学卒業後の進路を考え出す時期に来ているのではないのでしょうか？

## 9. 配付資料

講義で配布する資料などは、できるだけ毎回下記のホームページにアップロードしておくので、必要な人や欠席した人は、各自でダウンロードしてください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jyuu.html/jyuukan.html>

なお、上記の作業は、学生の皆さんの利便性を考えてのことですが、担当教員個人としては、 $\alpha$ のサービスと考えています。欠席した場合などは、友人にコピーさせてもらうなど、皆さん各自で対応するのが本来の姿だと考えています。この点から、授業中に見せるパワーポイントのスライドの内容についてはダウンロードできるようにはしていません。また、スライドの内容をダウンロードできるようにしないことについては、著作権法上の問題もあります。

## 10. 担当者

担当者の連絡先などは、以下の通りです。

准教授・辻原 万規彦

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階西南角

電話：096-383-2929（内線492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

助手・安浪 夕佳

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階南側中央付近

電話：096-383-2929（内線482）

e-mail：yasunami@pu-kumamoto.ac.jp

## 11. その他の注意

- ・担当教員（辻原）に対して生理的嫌悪感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。担当教員（辻原）自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するよう努めます。しかし、担当教員（辻原）自身による改善が難しくなかつ正当だと考えられる理由を書面で提出した場合には、成績評価の際に、出席点に関する考慮を行います。ただし、その場合でも、定期試験は必ず受験して下さい。
- ・講義時間以外で、担当者に質問をする際には、メールや電話で事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。担当教員（辻原）のオフィスアワーは火曜日3時限（12:50～14:20）ですが、この時間帯といえども緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特に携帯からメールを送る際には、送り主の氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていないメールには返答しないこともあります。
- ・担当教員（辻原）はできるかぎり標準語で話すように努めていますが、これまでの習慣上どうしても関西弁で話してしまうこともあります。しかし、漫才師などではありませんので、面白い話はありません。
- ・講義などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけていますが、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくないと思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るように努力します。
- ・これまでに、「皮肉な言い回しが良くない」、「人としてひねくれている」、「主観的すぎる意見があった」などの意見がありました。担当教員（辻原）としては、できるだけ中立の立場から素直に皆さんに話をするように心がけていますが、上記の様に感じた際には、遠慮なく指摘してください。直接指摘しにくい場合は、講義の最後を書く感想・意見・要望などのためのレポート用紙に書くなどして指摘して下さい。できるかぎり、改善するよう努力します。